

多田支店長「見る目増
やし、事故の芽摘む」

JFEシビル
名 古屋

JFEシビル名古屋
支店(支店長・多田正



氏は先週17日夕、同支店の施工協力店組織、安全衛生協力会名古屋支部の安全大会を名古屋市内で開催。当日は細谷由光同社常務のほか、会員ら30余名が参会した。大会では今年度より、安全指導員を導入し、さらに現場パトロールの監視を強化することが報告された。

このほか、山手紀隆安全衛生協力会副会長(細川工業社長)より、藤井善秀会長(JFEシビル社長)の「労働災害による被災者数は減少傾向にあるが、熟練者の減少、安全を含めた技能継承が課題。普段の仕事場や、現場で隠れた危険を見つけ、皆でその場に適切な最善の対策を立て、

安全管理を進めてほしい」などのメッセージが代読された。

また、多田支店長は「材料の荷動きは鈍いが、サブコンなど施工部門は繁忙で、分野によって差が生じている。今年度以降は、同時に施工する物件があり、引き続き堅調な施工が予想される。安全指導員制度の導入で、現場を見る目を増やし、事故になりうる芽を摘んでいきたい」と足元の環境について報告した。